

LIVING

2023年6月3日 1854号

リビング 滋賀

発行 滋賀リビング新聞社

<https://www.shigaliving.co.jp>

無料/土曜日発行 次回発行は6月10日

広告 ☎077(526)1521
記事 ☎077(526)1523
★配布はリビングプロシード ☎077(510)1061

※表示価格で特記のないものは消費税額等を含んだ総額表示です
※本紙掲載の情報は、社会情勢などにより変更になることがあります
イベント開催や内容に関するお問い合わせは直接各社・団体へお願いします



学長 竹村彰通さん

東京都生まれ。東京大学経済学部、同大学院、米スタンフォード大学統計学大学院を修了。東京大学大学院経済学研究科教授などを経て、2015年滋賀大学データサイエンス教育研究推進室長として、学部の創設に尽力。特技はピアノ

デジタルはツールとして使い 物事をゆつくり考える訓練を

ICT(情報通信技術)が日々発達する現代。当大学が日本初でした「学びの現場でどんな変化がありますか。」
「情報収集は図書館や新聞からネット検索へ、授業は黒板からスライドへとデジタル化が進んでいます。大学の講義も対面とオンラインのハイブリッド方式がスタンダードになりつつあります。本学では2017年にデータサイエンス学部を創設。インターネットに蓄積された膨大なデータを処理・分析することで新たな価値を生み出せる人材を育てるのが目的で、物事に取り組むことで、学部としての開設は「創発力」が養われます。この力は情報を与えられ過ぎては育ちません。子どもたちにとって正解のないことをゆつくり考える訓練は大切。親はそういった子どもの自分で伸びようとする力を信じ見守ってあげてください」

ICT(情報通信技術)が日々発達する現代。当大学が日本初でした「学びの現場でどんな変化がありますか。」
「情報収集は図書館や新聞からネット検索へ、授業は黒板からスライドへとデジタル化が進んでいます。大学の講義も対面とオンラインのハイブリッド方式がスタンダードになりつつあります。本学では2017年にデータサイエンス学部を創設。インターネットに蓄積された膨大なデータを処理・分析することで新たな価値を生み出せる人材を育てるのが目的で、物事に取り組むことで、学部としての開設は「創発力」が養われます。この力は情報を与えられ過ぎては育ちません。子どもたちにとって正解のないことをゆつくり考える訓練は大切。親はそういった子どもの自分で伸びようとする力を信じ見守ってあげてください」



滋賀大学
彦根市馬場1-1-1
☎0749(27)1005

社会の国際化や情報通信技術の進歩など、今の子どもたちを取り巻く教育環境は大きく変化し、自分たちの時代とのギャップに戸惑う親世代も多いはず。そんな小・中学生の子どもを持つ親たちに、滋賀大学の学長からメッセージをもらいました。 撮影/桂伸也ほか

滋賀の大学の学長からのメッセージ

変化の多い時代に「学ぶ」ということ

「当たり前」の経験を力に 地元で貢献できる人材を育成

「環境に関わる学部があるのが、自然豊かな滋賀ならではのですね。」
「本学ではこの地の利を生かし、人文科学、社会科学、自然科学と幅広い分野から学ぶことができます。中でも環境科学部は日本で初めて『環境』という言葉冠した学部です。開学当初からさまざまな環境課題に取り組んできました。環境を考えることが当たり前になった現代で、ここで得た知識や経験は、将来地元で役に立つと思います。」
「しかし、本学に限らず滋賀の大学生の進路はな...」
「環境に関わる学部があるのが、県外志向が強い。県内就職率が約30%という調査結果もあり、私たちは10年、20年先に向けて大学のあり方を考えていかなければなりません。同時に、学生にはもっと滋賀の良さに目を向け、地元で働きたいと思ってもらいたいですね。」
「子どもの育ちで大事なことは何ですか。」
「それは、経験値を高めることではないでしょうか。外国に行く、変わった習い事をやる、というものではなく、子ども同士で仲良く遊ぶとか、自然の中で虫とりや水遊びをするとか、ひと昔前では当たり前だったことです。祖父母など年代の違う人としゃべるのもいいですね。仕事でいろいろな人と関わったり、チームとして何かを成し遂げるとき、その経験は大きな力となるはずですよ」



学長 井手慎司さん

愛媛県生まれ、米ライス大学博士課程修了。国際湖沼環境委員会職員を経て、1995年に滋賀県立大学に着任。同大学環境科学部助教授、教授として教壇に立つ間、同学部学部長、環境科学研究院長を歴任し、4月より同大学理事長・学長に就任



滋賀県立大学
彦根市八坂町2500
☎0749(28)8201

◇2面に続く